

第9回 生駒市景観形成基本計画策定懇話会 会議録

1. 日時 平成24年11月9日(金)10時00分～12時00分
2. 場所 生駒市役所 403・404会議室
3. 参加者 久座長、下村氏、嘉名氏、大原氏、福本氏、樽井氏、植田氏、大西氏
4. 欠席者 なし
5. 事務局 吉岡部長、中井課長、西本課長補佐、高谷係長、塩崎主任、阪本主任、浅井(以上、みどり景観課)坂井、絹原(株式会社地域計画建築研究所)
6. 会議公開 公開
7. 傍聴者数 なし
8. 議事内容
(1) スケジュール等の変更について

事務局説明(資料1)

座長：デザインマニュアルの予算確保ができなかったことから、作業期間を延長することでマニュアルの内容を盛り込もうという提案。計画の策定作業は約半年待っていただいて、マニュアルが揃った段階で懇話会を開催し、ご意見をいただくということ。全体のスケジュールも半年ずれることになる。これに関して、ご意見、ご質問はございますか。

参加者：基本計画策定のスケジュールは了解した。しかし、景観計画との関係がよく分からなくなっている。そもそも第4章である「規制の方針と推進方策」が景観計画につながるはず。4-20ページでは3つの地域に区分して景観を考えようとしているが、これを基本計画の中で書く必要があるのか疑問である。基本計画が策定されたら景観計画を修正する必要があるが、そのスケジュールが短いのではないか。景観計画を変更するならもう少し早めに取り組みねば現実的ではない。景観計画は微調整にとどめるのか、全面的に直すのか。そのスタンスがよく分からない。

事務局：景観計画見直しについては、現在の記述から法定部分のみ残して、その前段の方

針や考え方は基本計画の中に位置付けるという微調整を行い、景観計画はすっきりさせたい。

参加者：この基本計画を策定したにも関わらず、景観計画自体は変える必要がないというスタンスで動いているように見える。それでは基本計画を作った意義が希薄になる。せっかくここまで特性を把握して、どう取り組むかを書いたにも関わらず、景観計画が前のままだと説得力も弱いのでは。

座長：ご意見を整理したいが、基本計画をもっと早く作るべきというのか、景観計画見直し期間を十分取るべきということなのか、どちらか。

参加者：4-20 ページの3つの区分の記述が必要なのかどうか分らなかった。また、この規制を運用するなら景観計画の構成の中で検討する必要がある、全面的に景観計画を見直すとすれば期間が短すぎる。微修正なら基本計画の存在意義が弱くなる。

座長：景観計画は既に3つの地域に分け運用しており、これもきっちり過去に委員会で議論したもの。それを大枠で位置付けるのが4-20 ページ。計画の位置付け・関係を意識しており、中身は大きく変える必然性がないという事務局の判断ではないか。

来年6月の懇話会で再度確認していただき、OKならこのままで良いが、もし意見が出され時間が足りないならずれてくる、ということでご理解を。この議論については景観計画策定の中でもあったと思う。まずは先行的に景観計画を作って、それを後で基本計画に反映させようということ動いている。基本計画ができあがってから、6月の懇話会で確認させていただければ。

参加者：延期することとデザインマニュアルの内容を追加することの説明があったが、それ以外の大事な話として、デザインマニュアルは議会で審議されるのか。基本計画とマニュアルが合体されるのであれば議会での審議も必要になる。

事務局：議会で報告することとしている。

座長：では、スケジュールが半年ずれるということでご理解を。

(2) 景観形成基本計画の素案について

事務局説明（資料2、3）

座長：1～2章、3章、4章と区切ってご意見をいただきたい。まず、1～2章について、これまでにご意見をいただいているが、全体の位置付けを通してご意見は。

参加者：大きな話ではないが、言葉遣いが気になった点として1-4 ページの「みんなが大切に思う景観をきちんと守る」という表現。趣旨は理解できるが「敬意を払う」といった表現でどうか。「きちんと守る」は今あるものを動かさない、全く動かさないという語感にも捉えられる。全体のタッチと合わせてもう少しエモーショナルな表現の方が良い。タイトル部分の言葉遣いは吟味していただきたい。「大切に守る」という表現もど

うか。

オープン外構の写真があまり良くないと思っている。後日写真を吟味すると思うが、オープン外構は開放感がある一方、道路側の緑の量が少なくなりがち。事例としては、オープン外構であるがシンボルツリーが敷き際にあって緑豊かな演出をしているようなものが良い。今のままだとオープン外構だと良いと捉えられるが、そうではない。その辺りが少し表現できると良い。

座長：1-4 ページの1番のタイトルは「みんなが大切に思う景観を大切にする」とするだけで印象が違う。「きちんと守る」は方向性まで定めてしまっている。時間をかけ吟味すると良いタイトルになると思う。

写真は3章でも多用されているが、これで良いのかというものもある。皆さんからも出していただきたい。他はいかがか。

参加者：最後に修正されると思うが、概要と本文のタイトルがずれている。表現も「生駒らしい景観」と「生駒の景観」となっていたり、ナンバリングの仕方が異なっていたり。これがずれていると信頼性にも関わるので、最終の段階できちんと統一してほしい。

参加者：パターンも含めて写真を多く使っているが、「こんなものはだめ」という形で載せられないのか。

座長：それは難しい。特定の場所を対象に悪い例として出すとクレームが出てしまう。

参加者：あまり載せないものなのか。

座長：確かに分かりやすいのだが、載せにくい。

参加者：看板の文字も消さないといけなくなる。

参加者：その辺りをあまり堅苦しく考えてほしくないところ。他市で、ある店舗の写真を載せたが、その店が不法占拠していたことが分かりそれはまずいという話もあった。商店街の中ではそうした部分は出てくるかも知れないが、景観の側から考えたら良いとは思いますが。

座長：2章は写真が多いが、地図や断面図の方が分かりやすいところもある。例えば 2-16 ページ（集落領域の中心と端）は写真だけでは分かりにくいので地図で表記されたい。2-17 ページ（地形との関係）は断面図があった方が良い。図表での説明も加えたい。

では3章に移りたい。議論の前に確認だが、これを受けた細かいデザインの話は別途デザインマニュアルを作成するので、パターンはその手前の例示として載っている。そのため、網羅的になっておらず、今後はデザインマニュアルで追加される、という前提で議論をお願いしたい。

参加者：その前提が気になっている。パターンに応じてデザインマニュアルを作るということだが、パターンの説明の中に「～しましょう」「～してください」と表現されている。その中でも重要なものについては、デザインマニュアルとともに景観計画の規制に位置付けるものと思っている。冒頭での発言も、3つに分けた区域とこのパターンとがどういう関連になるのか、全てのパターンが大半の地域に該当するとすると3つの区分

が必要ないのでは、という気持ちになる。現在の規制の内容はそんなに大きな違いがないわけで、パターンを重視した形で景観計画に持っていったらおもしろいと思っているがどうか。

座長：こう理解すると分かりやすいのでは。3章ではデザインを「～しましょう」という書き方にしている。一方、規制は「～してはならない」と書いている。そこが大きな違い。みんなで頑張るって良いものにしましょうという話と、してはならないというレベル差は気にしなければならない。制限や規制はみんなが守らなければならない部分だけが抜き出されて書かれている。その仕分けはきちんとしておかないと、デザイン側や作る側からすれば「それは守らなければならないのか、みんなで頑張るところか」と混乱してしまうので、一線引いておかねばならない。そのため、生駒市では景観計画を別冊にしており、一緒になると混乱してしまう。3つの地域によって守らなければならないレベルが違う。そう理解すると景観計画と3章の関係が一層分かりやすいのではないか。

参加者：まだ決まっていなくても知れないが、デザインマニュアルがこの3章の後に加わるのか。パターンも多いのでかなり膨大なイメージになる。

事務局：3章は見開き2ページで完結している。その後ろもしくは別冊とするかはまだ決まっていない。

座長：編集作業の中で決まっていこう。

3-37 ページ、「しきりの仕方」と「つなぎの仕方」とあるが、「しきってつなぐ」という方法もある。例えば農家の住宅は一段高いところにあるので、空間として道路と敷地が仕切られている。ただ、一段高いので敷地内の空間がオープンであっても道路から人の視線が入って来なくて、かつ敷地から道路への視線も確保できる。段差で空間は仕切っているけど、塀等がないため視線は通しているという形。そんなところもあって良い。今では「しきる」か「つなぐ」かどちらかしか見えないように見えるので、加えていただければ。

参加者：前回より整理され分かりやすくなっている。

3-2～3 ページにパターンの考え方をもう少し詳しく書いて欲しい。敷地・建物があり、通りがあつて、その間に緑など敷き際の空間があつて、周りに緑があつて、街区があつて、それら構成がスケール感へとつながる、という流れを丁寧に説明し、それらの要素、組み合わせや関係性がパターンで、景観を考える上で大事である、と。この場では了解されている基本事項を他の方が読んで分かるように伝えて欲しい。

全体を通じて追加して欲しいのが、「通りの構え」といった内容。例えば個々の建物の高さや形を揃えるというのはあるが、通りを中心に考え、住宅地中心の通りなら隣の建物との関係で自分の建物をこうしよう、この通りはこういう建ち方をしているからこうしよう、といったもの。また、「季節感」も加えられないか。後半には夜の照明が出てくるが、「夜景」をどうするのか。

また、前段の写真の表現とも関わってくるが、アドプト活動など場の創出に絡むもの

を景観まちづくりの事例として入れるのも手である。商店街は敷き際に商品がディスプレイされているのは、にぎわいの創出には良いが、各々が勝手にではなく商店会組合で考えましょう、といったことも盛り込めないか。現在の案は割り切ってあまり入れないようにしているように見受けられる。こうした考え方がメインにはなり得ないが、そうした仕掛けや仕組がいるという匂わせ方ができないか。

個別の写真・図は吟味が必要。3-17 ページの図は、考え方は理解できるが、斜面地マンションを助長あるいは推奨しているようにも見える。3-40 ページの「統一と絞り込み」の「統一」はややきつい表現ではないか。整える、絞り込むといった辺りの表現で吟味をしてもらいたいと思う。

座長：通りの景観の話と、後段の商店会での景観づくりの話はつながるところがある。いろんな仕事をしている経験上、街並みを見るだけでコミュニティの仲の良さが推測できるところがある。バラバラと立てているところはコミュニティのつながりが弱い。お互い様という気持ちがあると暗黙のルールが了解され、統一感が出てくる。コミュニティの関係性と景観の整え方は実は関係しており、仲の良さが景観に出てくる。とすれば、互いにつながってくると思うので、書きぶりで工夫されたい。2章でそういうところがあっても良い。他の地域で地区計画策定の中で「仲が良かったらルールなんて要らない」と住民の方が仰ったというが、典型的な例である。

参加者：3-24 ページの「人が交わる場所」はいろんなところで作ることができる交流の場でもある。左下の図に小さく「辻」と書いてあるが、これがキーワードになってくるのでは。辻という言葉を入れるか、あるいは右のページの図に井戸端会議の発生のポイントとして、こうした辻で会話が発生するという話を盛り込んで。辻は大きな街道と小さな道の分岐点ということだが、この辻を強調するのも良い。

3-26 ページの「農の風景」で、ノラ、ヤマ、ムラの考え方は結構だが、これは日本全体に共通の風景ではない。どちらかといえば中山間地域の風景であり、例えば諫早湾・八郎潟などの農地はほぼ平地で山が見えない。関西のほとんどがこのヤマとムラとその前に広がる農地の形である。農地は耕地整理され人工的な造形になっているが、それ以前の地形勾配を持った棚田が、都市近郊の農空間のイメージである。その後、耕地整理されて調整区域の中に都市計画道路が貫通し、沿道で土地利用が行われることで農の風景が損なわれている。要は、「農が見えない風景となってしまうのを避けたい」ということではないか。農の風景を守りたいが守られない実情もあることをこの中で感じてもらえるかどうか。建て方として奥の農の風景が見えるような形で、道路面に対して平面が大きく目立つと奥行きが遮られるということも業者にも感じてもらいたい。

座長：北生駒駅周辺が正にそうなりつつある。バイパス沿道に店舗が立地し、奥に農地が残っているが感じられなくなる。

辻の話はおもしろい。交差点という言葉では全くイメージが違う。今では道路がぶつかる場所、という意味だけになっているが、辻に人が集まり交流空間が生まれるとい

うことはパターンにも出てくるので、そういうところを補強されるとおもしろい。

参加者：辻を使おうというのは、歴史的な雰囲気的大事にしようという意味か。

参加者：街道の辻ならそうだが、もともと辻という言葉の意味は大きな道と小さい道がぶつかる場所というものもあれば、街中の道のちょっとした空間に人が集まる、という意味もある。そこに共用、村の入会地的なものや井戸がある。

参加者：そういう辻を大事にしようというのと、人が集まるようなところをまちづくりで考えていきたいと思いますよということのどちらか。

参加者：両方だと思ふ。景観に対して「辻」的なものを設けるとするのはできないのではなく、コミュニティの場としての展開も可能。多方向から見える場所であり、場所性を大事にしていくために「辻」と書いておけば、イメージが持てる。

座長：生駒は既に市民の方が花を植えている交差点がたくさんある。それが生駒の特徴でもある。3-25 ページにそういう紹介があってもよい。

参加者：基本計画の表紙をめくるとすぐ目次になるが、この前に市の考え方などが入ってくるのか、あるいはこのままなのか。通常は計画というと考え方やこういう経緯で作っているとか、今後のまちづくりをこう考えると、そういうページがある。

事務局：通常は市長の顔写真が入り挨拶が入ることが多いが、今の段階ではまだ決まっていない。皆さんのコメントなどを入れていけたらと思ったりもするが、編集の際、工夫できたら良いと考えている。

参加者：専門家でない市民が最初に読むところであり、細かいところはその次になるので、最初に「今後のまちづくりをこういう考え方で取り組む」とある方が、市民は理解しやすい。

事務局：市長からこの計画を作ったというメッセージが必要かと思っており、市長の言葉で良いと考えているが、内容は先生方と相談したい。

座長：この本をどうやって読むのか、その読み方を示してはどうか。

参加者：3-32 ページ「通りのプロポーショナル」の右側は、こういう説明・表現で良いか。プロポーショナルは都市計画も絡んでくるし、高度利用したいならこういうふうにはかない部分もある。D/H=1.0~1.5 といった数値を入れるのが良いのか。

座長：先ほどもあったが、これは規制ではないので、「意識しませんか」と望ましい方向を示しているもの。高いものを建てたいのであれば道路際から後退してください、ということでもある。そのあたりの絵の説明があるのでは。要は、敷地際から後退したら自分の敷地内内でDの部分が確保できるということ。

参加者：「これは良くない」というものは入っていないのか。3-40 ページに再開発の写真があるが、この広告の掲出の仕方を良い例と見るのか。現在施行中の再開発の姿は景観の先生方から見て良いのかどうか。

座長：100 点は難しいとしても、80 点くらいまではいきたいと思っている。

参加者：現在そうした動きが進行しているのに、基本計画では「こういう感じにしたい」

というのが出ていない。

座長：再開発事業に対しては個別にアドバイスをしているので、逐一基本計画に書かなくても良い。個別の特別な案件として扱えば。

参加者：北生駒駅周辺はどうか。

座長：学研北生駒は危ない面もあると思う。再開発は組合施行ではあるが市も関与しているので担保できるところはある。一方、北生駒駅周辺は地主さんと事業者が行う民間の事業なので、レベルが違う。

参加者：広告物を最小限にしているが、この程度で良い、と考えるのか。

座長：やむを得ない、という感じだと思う。

参加者：3-40 ページだけコメントが多すぎるのでは。

参加者：3章のタイトルはどういう形で考えられてきたのか。「曲がった道」「しきりとつなぎ」「連歌式」など、これまでの計画にはない形で大変おもしろいと思った。せっかくこういうタイトルがあるのに、まだ固い表現のものもあり、情緒的に読み手に心に留めさせるよう磨き上げて欲しい。「期待感」「用の美」などは何か感じさせるものがある。それで各ページを開いたら、コラムとして「こういうふう読みとって」という記事があり、ナビゲーターの役目を果たすように、雑誌の中にコラム的に出てくるようなイメージのタイトルにして欲しい。そして、始めの5行くらいでその心を読み解くようなコラムが200~400字程度、やわらかい形で書いてあって「そういうことが生駒にあるのだな」と感じられると、入りやすい読み物になる。

座長：「これは固い」というのを後でご指摘頂いたら良いのではないか。

参加者：3-50 ページ「アクションできる余地」で公園の事業名が出ているが、挙げておいて良いのか。「住民と一緒に取り組んだ公園」としても良い。

座長：「アクションできる余地」というのは分かりにくい。「手を加える余地」でいかがか。アクションは色々な意味がある。

参加者：裏返せば、作りすぎない場所づくり。もしくは作り続ける場所でも良い。

座長：そこに込められている意図が分かる書きぶりに。これまでは専門家がデザインして「さあ使ってください」としていたが、そうではなく、いろんな余地があり、住民の手が加わって、愛着が増すということ。

参加者：行政が取り組む公共事業についても誘導が必要。例えば、河川については「川筋の見通し」というパターンがあるが、生駒らしい景観の時に三面張りの河川空間は避ける、堤防の植栽に気を配る、街路樹がある通りの所にも県、市で植栽を行うといったことも入れてもらえると良い。

座長：おっしゃっていただいたのは個別のデザインで、デザインマニュアルのレベルだと思う。公共施設のデザインマニュアルも今後想定されるので、その中で受け止めては。ここは大きく捉えた話の方が良い。

3-54 ページ「仮説の風景」で、奈良で HANARART というイベントをやっているが、こ

れも仮説の風景である。市民が関わるイベントでちょっとした飾り物をする、展示物を置くことも3-55で触れてほしい。

参加者：まとまってきた段階なので、あえて申し上げておきたい。これをベースに事業者や市民にデザインを考えてもらう、景観計画の届出手続の時にも「基本計画にこう書いている」と説得したり、話し合いしたりする際の材料となる。そういう目で見ると、現在のパターンは建築の形態・意匠のコメントがあまりなく、大きな配置等の考え方が中心。指導するときに「これを持ち出してこう指導したい」という対応関係は考えておいて欲しい。例えば建築設備の話では室外機をどうするとか、屋根の形状をどうするとか、そのことを匂わせておくと良い。内容として違和感はないが、実態上使いやすいようにしておくべき。

座長：次のデザインマニュアル作業を経てフィードバックする方法もある。3章に書かないとデザインマニュアルで運用できないということなら書き込めば良いので、その辺りのやりとりを進めては。

では、4章も含めてご意見を。

参加者：4-22～23 ページは「整える」を使い過ぎなので、ここは強い口調ではっきり言ってほしい部分。しくみを整えるという表現は望ましくない。

参加者：4-22～23 ページ「支援の方針と施策」に関連して、景観と環境はあまり境目を感じないが、自治会で環境整備など取り組まれ、きれいなまちづくり条例推進員制度で道路側溝を小学生と一緒に掃除するなど、本市は環境保全の施策が進んでいる。環境として扱うか、景観の一部として扱うか、となるが、景観を良くすることは細かなことまでつながってくる。環境の問題と言わずに、きれいなまちを作る条例なども取り込んでもらった方が良い。実際、道路のゴミ拾い、側溝の掃除などが進んでいる。景観の中にも入ってくる話として採り入れてもらえれば。

座長：具体的には4-6 ページが関連すると思う。それが前面に出すぎると趣旨が異なってくるので、無理のない範囲で盛り込んで欲しい。

本日、いろいろご意見を頂いたので、さらに充実したものにして頂ければ。

その他

生駒の景観募集等について（報告）

事務局：前回懇話会で生駒の景観募集について状況を報告したところだが、今後、市のホームページで募集作品の一部を掲載予定。一般向けにも広報12/15号で掲載。寄せられた風景写真は来年3月開催予定の「まち・景観シンポジウム」で展示し、市民に広く生駒の良いところを紹介し、景観を大切にしたいまちづくり意識を高めていきたいと考えている。

シンポジウムは、来年3/10（日）北コミュニティセンターISTA はばたきで開催予定。2部構成として、1部では久先生の基調講演とあわせて、宮川花子さんの「住みやすい

まち、生駒とわたし」の記念講演を予定。2部は久先生のコーディネートのもと、魅力ある生駒を作るにはどうしたらよいか、について、市長と活動的な女性3名を加えたパネルディスカッションを予定。会場の外では環境部局とも連携した同時開催のフリーマーケット、スマートコミュニティの展示などを企画中。委員の皆さんにはご協力をお願いしたい。

座長：景観計画のタイミングがずれたので募集の中でいい写真があれば、基本計画にも掲載してはどうか。後ろには撮られた方の名前を一覧で載せることで、より市民参加できるアピールになるのでは。

今後のスケジュールについて

事務局：次回懇話会のスケジュールは、専門部会でまとまった段階で改めてお示しする。

おそらく6月くらいになると思われる。これにより、先日、12/26に次回懇話会を開催予定としていたが、これは中止とさせていただきます。

以 上